

シンポジウム 文化省創設への道筋

日時 | 2015年11月12日[木] 17:00 18:50

会場 | 東京美術倶楽部

挨拶 | 野村 萬 (文化芸術推進フォーラム議長)

講演 | 「東京五輪と文化芸術」

遠藤利明 (東京オリンピック・パラリンピック担当大臣 / 衆議院議員)

問題提起 | 伊藤信太郎 (衆議院議員 / 文化芸術振興議員連盟事務局長)

討論 | 逢沢一郎 (衆議院議員)

枝野幸男 (衆議院議員 / 文化芸術振興議員連盟副会長)

高木美智代 (衆議院議員)

松野頼久 (衆議院議員 / 文化芸術振興議員連盟副会長)

市田忠義 (参議院議員 / 文化芸術振興議員連盟副会長)

まとめ | 河村建夫 (衆議院議員 / 文化芸術振興議員連盟会長)

進行 | 浮島智子 (衆議院議員 / 文化芸術振興議員連盟事務局次長)

主催 | 文化芸術振興議員連盟 / 文化芸術推進フォーラム

開会挨拶

野村 萬 (文化芸術推進フォーラム議長)

2013年より文化省創設についてのシンポジウムを開催し、実現に向けた第1歩を踏み出しました。昨年は「五輪の年には文化省」という目標を掲げ、本年はその実現のための道筋を探る重要なステップにしたいと考えております。もとより文化省の創設は、わが国が「真の文化芸術立国」となるための核であり、政治主導で果たされるべき重要案件です。その推進の要が文化芸術振興議員連盟であり、私は昨年のシンポジウムで、わが国のすべての文化芸術は、まさに国技であると申し上げました。私どもは国技の担い手としての精神を持ち、議員連盟ならびに諸先生方のご活躍を、全力でお支えする責務を担っております。東京オリンピック・パラリンピックの年に文化省が創設されることは、わが国が政治・経済とともに、文化芸術が豊かに根づく文化大国であることを世界に示す絶好の機会であります。その道筋として、省庁連絡会議や文化担当大臣の設置、劇場・美術館・助成機関の充実などが既に提言されています。本日はこれまでの議論を前進させる具体的な指針をお示しただけですよう、先生方のご講演ならびにご提言に期待いたします。



野村 萬 文化芸術推進フォーラム議長

講演「東京五輪と文化芸術」

遠藤利明 (東京オリンピック・パラリンピック担当大臣 / 衆議院議員)

オリンピック・パラリンピックの成功の条件は、3つあると思います。一つは安心・安全な運営。近年は様々なかたちでテロの危険性が高まり、セキュリティが重要です。それから暑さ対策。施設整備をしっかりと行い、安心して安全な運営をしていくことが一番です。二つ目はメダルの獲得です。参加することに意義がありますが、やはり良い成績が出ると盛り上がります。イングランドでのラグビーW杯もそうでした。2019年には日本でもW杯が開催されます。実は私も昔ラグビーをやっていたのですが、これまでW杯の開催はほとんど知られていなかったように思います。しかし日本代表が活躍した途端に、ジャパンラグビーのトップリーグのチケットが10倍近く売れていると聞きます。やはり好成績やメダルの獲得は重要だと改めて思いました。もう一つはレガシーをつくることです。パラリンピックの起源は、イギリスのストークマンデヴィル病院で戦傷者のリハビリ治療を、スポーツを通じて行った競技大会です。1960年のローマ大会の時に第1回目のパラリンピックと言われていますが、それは9回目のストークマンデヴィル競技大会でした。正式にパラリンピックとなったのは1964年の東京大会からです。ですから東京は2回目のパラリンピックを行う、初めての都市となるのです。

先日、メダリストでもあり、ロンドン大会の組織委員会会長だったセバスチャン・コー氏と話をしました。ロンドン大会では、オリンピックとパラリンピックは一体の運営という考え方で行われたそうです。日本にとっての最大のレガシーとは、パラリンピックを契機にユニバーサルデザインの社会が実現していくことではないかと思います。障がいがある人、高齢者、健常者が同じような視点・感覚で生活できる共生社会がつけられていくことです。国内だけでなく、スポーツを通じてアジアに貢献していくことも必要です。前回大会では新幹線や高速道路がつけられましたが、今回はむしろ環境や水素エネルギーのシステムなど、

[NEA: National Endowment for the Arts] というところがある、民間団体として頑張っています。もちろん政府も巻き込んでいますが、民間がリードしています。韓国も文化に力を入れていますが、文化体育観光部傘下に文化財庁というものがあり、文化と体育、観光とをくっつけている。日本でも、どのような文化省をつくるかが課題となるでしょう。各国やり方は違いますが、文化芸術がすべての国民生活を豊かにし、地域社会の住みよさを高める、ということが基本的なビジョンであることは同じなのです。

既にオリンピック担当相がつけられましたが、さらに一歩進んで、文化大臣をつくりたいというのがわれわれの願いです。東京オリンピックが契機になると思っています。行政改革をどのように考えていくかですが、このムードがさらに盛り上がってくることによって、可能性があると思います。先ほど来、せっかくの議連だから、そろそろ各党をまとめていこうというお話がありました。これは超党派の強みです。自民党も本気でこの問題に取り組んでいき

ます。自民党には文化伝統振興の調査会があり、中曽根元大臣を中心に絶えず議論しています。このシンポジウムも3回に渡って開催して参りましたが、各芸術団体等を網羅したかたちで今後どのように展開していくかを相談しながら、本格的に文化省の創設を目指す運動を盛り上げていきたいと考えております。それには国民の理解と応援が必要です。日本にふさわしいかたちの文化省、文化大臣をつくらうと、この大きなうねりを高めたいと思っておりますので、今後ともご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

浮島 これをもちましてシンポジウムを終了いたします。本日はありがとうございました。

懇親会

シンポジウム終了後の懇親会は、推進フォーラム構成団体の各代表紹介ならびに会場を提供いただいた浅木正勝氏の挨拶で開会。続いて、来賓の甘利明経済再生担当大臣より文化省創設に向けてのエールが送られた。

参加国会議員の紹介後、河村建夫文化芸術振興議員連盟会長、野村萬文化芸術推進フォーラム議長による乾杯がなされた。

冒頭および中盤には、津軽三味線デュオの演奏もはさみ、崔洋一日本映画監督協会理事長の中締めで閉会となった。

文化省創設をテーマとしたシンポジウムも3回を重ね、次なる行動に向けての機運を高める機会となった。



河村建夫 文化芸術振興議員連盟会長、
野村 萬 文化芸術推進フォーラム議長による乾杯



崔 洋一 日本映画監督協会理事長による挨拶